



問い合わせ先
 泗水図書館 ☎0968 (38) 6866
 中央公民館図書室 ☎0968 (25) 1672
 七城公民館図書室 ☎0968 (25) 1580
 旭志公民館図書室 ☎0968 (37) 3111
 内線303

閉館日・閉室日
 泗水図書館 月曜日・月末・祝日
 中央公民館図書室 火曜日・第1日曜日・祝日
 七城公民館図書室 日曜日・祝日
 旭志公民館図書室 日曜日・祝日



中央公民館図書室の雑誌コーナーには、いろいろなジャンルの雑誌を揃えています。最新号以外は貸し出しできますので、皆さんぜひご利用ください。(中央公民館図書室)

※図書イベント情報は、36ページの行事予定に掲載しています。

新着・お薦め図書

- 泗水図書館**
 河野裕子読本 [短歌] 編集部 著
 平成猿蟹合戦図 吉田修一 著
 逃亡医 仙川 環 著
 人間はすごいな 日本エッセイスト・クラブ 編
 ジョブズ・ウェイ ジェイ・エリオット/他 著
 ぜんそく力 清水宏保 著
 サッカーボーイズ15歳 はらだみずき 著
 おおきなかぼちゃ S. D. シンドラー 絵
- 中央公民館図書室**
 コケはともだち 藤井久子 著
 アイドル新党 原 宏一 著
 崩れかけのプロポーズ 1~2巻 榎 ハナ 著
 結界の森へ あさのあつこ 著
 くまときつね いもとようこ 文
- 七城公民館図書室**
 葉桜 橋本 紡 著
 おちばいちは 西原みのり 作
- 旭志公民館図書室**
 あやかし草子 千早あかね 著
 みんなのこびと なばたとしたか さく

まごころのかげぼく「じっぼ」 たつみや 著作
 私がおすすめする本は、たつみや章さんが書いた「じっぼ」という本です。ある日、学校の帰り道に、太郎は、ドブのようなところで、なんか珍しい生きものらしきものを見つけました。それが、かっぱの「じっぼ」との出会いです。それからじっぼを家族には内緒で飼いはじめた太郎。ヒヤヒヤ、ドキドキの毎日の中、「川が臭い」とじっぼが言うシーンがあり、自然保護を大切にしなければならぬ事実も考えさせられました。一番に残ったのは、かっぱのじっぼと太郎が別れる場面です。じっぼは、自分住んでいた川に戻ると、兄弟や親と一緒に沈んでいきます。その時、太郎は挙げたくない手を無理矢理に挙げて「バ



原 かおりさん (水源小6年)

イバイ」と言うのです。この別れの場面にとっても感動しました。その後、車の中や、家などでじっぼの思い出がよみがえるたびに、悲しくなる太郎の姿に、じっぼと太郎の仲の良さを深く感じられてなりません。じっぼと暮らした期間で太郎の心の変化とそれに伴って、成長していく太郎の姿にも注目できる1冊と思います。

耳より情報

としょかんまつり
 と き 11月6日(日) 午前10時~
 内 容 リサイクル図書の配布、各種展示、その他
 (午前の部)午前10時30分~
 ・講演「蘆花文学と菊池(仮)」 講師 津留今朝寿さん
 ・大人のためのおはなし会
 (午後の部)午後1時30分~
 ・ペープサート「王さまと鷹」
 ・子どものおはなし会/くまモンも来るよ!
 ※詳しくは館内配布のチラシをご覧ください。
 (泗水図書館)

第2回図書館バスツアーを開催します!
 市内4カ所(泗水・中央・七城・旭志)の図書館(室)を巡ります。各館で楽しいイベントを用意してお待ちしています。
 と き 12月10日(土)午後1時~
 ところ 泗水図書館集合
 定 員 先着20人
 参加費 無料
 申込期限 11月15日(火) ※定員になり次第締め切ります。
 申込方法 各図書館(室)に置いてある申込用紙に必要事項を記入し、窓口へ提出してください。電話での申し込みは中央公民館☎0968(25)1672までお願いします。

万句の里俳句会 9月例会

秋風を入れて安らぐ家居かな 隈部 輝子
 群雲を照らして渡る月の庭 田島 房子
 早起きに新涼の得給はりぬ 加藤 妙子
 群れなして川面飛び交ふ帰燕かな 北村 妙子
 渺渺と風が過ぎゆく草原 平山 邦子

せせらぎ俳句会 9月例会

吟行の棚田の曼珠沙華なつかしき 村山 数恵
 電話みな秋暑嘆くにはじまりて 五丁 義昭
 月青し瓦礫の町よ東北よ 寺本 和子
 大根播くそつと吹く風楽しみて 藤本アツ子
 冷え込みも程よい心地秋の風 渡辺 大寿

旭志文芸俳句会 9月詠草

草むらに鈴虫鳴けり散歩径 芹川のり子
 喉鳴らし麦茶飲み干す部活の子 中尾ヨシコ

あと幾年生命いただく酷暑かな 東 芳子

納涼やひと廻りする朝の畑 芹川 蓉子
 句の友に弔辞したたむ晩夏かな 水谷 ミネ

肥後狂句桜会 9月例会

ぼちいぼち 魁皇が達成さした 田尻 浩風
 しびれ切らして 鳴らせ始めたクラクシヨ 高木 房恵
 ぼちいぼち 言うど飲むとは大違い 高倉 新米
 お生憎 夜は一人じゃありません 辻 弘喜
 ぼちいぼち 鈍行の旅好いとらす 藤野 清子

肥後狂句水笑会 9月例会

いきなり団子 町おこしにやあどう 吉岡 三水
 好き嫌い そるば言うなら職は無か 井手 水光
 好き嫌い そこまで親に似るとかい 宮上 美由
 ウォーキング 三日坊主が歩きよる 続 義昭
 ウォーキング 畳の上も無理しよる 山隈 好茶

七城短歌会 9月詠草

朝ドラマ掻き消すまでの蝉しぐれ今日も 岩津 涼子
 日も猛暑か負けずゆかなむ 久びさに友を案じて掛けてみる電話にやつれし声返りくる 池田カツ子
 ひとり居の吾を気遣ひ来たる友こころ 吉間 充子
 遺書を読む胸また熱しここ知覧発ちたる君はまだ若くして 水田紗陽子
 カーブミラーの車の影に戦きぬ落着き見れば己の車 村上 幾雄

里短歌会 9月詠草

本を閉じ今宵は家事の音立てず清き月と共に過ごさむ 宮本 淑子
 マーチングに惹かれ高校進学の孫は河原にトロンボーン鳴らす 松岡 節子
 起き抜けのラジオ体操公園に父の見ていた景色見ている 緒方 悦子
 二十五回忌に母の手紙を読み返しあらたな涙ひそと流るる 川口 敦子
 里の空巡りて散りし栞兄の御霊はあらむこの菊池野に 松本 和子



菊池短歌会 10月詠草

つぶやきのやうな一言信じつつ五十年を添ひ遂げんとす 北島 たき
 紫蘇の花白くかすかに香りつつ束の間新涼満ちてくるなり 黒田 衣子
 古の武士の馬洗ふごと車洗ひをり秋の日向に 古賀 勝士
 彼岸花萎えゆく早し母の忌の過ぎてしまへば手がかりもなし 竹野美智代



昨日うたひ今日は耕し明日は詠みオパール世代の我のひぐらし 中川 愛子